

宮古市立小・中学校適正配置計画の全体計画（中間見直し）案 及び実施計画（令和8年度～令和10年度）案について

概要版

宮古市教育委員会

1 小・中学校適正配置に係る基本方針及び計画の概要

R2

R7

R11

R13

宮古市立小・中学校適正配置の基本方針（令和 2 ～ 1 1 年度）

目指すもの	活力ある学校づくり
	こころ豊かでたくましい児童生徒の育成
	指導体制の充実
	効率的な教育行政の推進

☆小学校

- ・複式学級の解消
- ・適正な通学距離を勘案しながら教育環境の充実を目的とした学校再編成

☆中学校

- ・複式学級の解消
- ・一定以上の人数を確保し、学習・特別活動等の選択の幅を広げるための学校再編成

★学校間連携（地域事情や地理的条件を配慮）

- ・小規模校において、他校との連携強化による教育効果の向上

※ 期間終了時に方針を変更する
必要がない場合は、その後も継続

宮古市立小・中学校適正配置計画全体計画（令和 2 ～ 1 3 年度）

◎小中学校の適正配置の全体像を示す

- ・市内 8 地区（宮古・花輪・津軽石・重茂・崎山・田老・新里・川井）に区分し検討

宮古市立小・中学校適正配置計画実施計画（3 か年ごと）段階的・計画的・具体的推進！

R2-R4 実施計画

R5-R7 実施計画

R8-R10 実施計画

R11-R13 実施計画

2 現行計画に定める『適正配置』の進捗状況（令和7年12月現在）

地区	適正配置（取り組み）内容	進捗度合い
宮古地区	○藤原小学校は、磯鶏小学校に統合する配置	R2.4.1 統合済
	○亀岳小学校は、山口小学校に統合する配置	R3.4.1 統合済
	○高浜小学校は、磯鶏小学校に統合する配置	R8.4.1 統合予定
津軽石地区	○赤前小学校は、津軽石小学校に統合する配置	R4.4.1 統合済
川井地区	○川井中学校は、川井小学校に併設する配置	R6.4.1 併設済

3 中間見直し後（令和8年度以降）の取り組み（ビジョン）

- ① 小中併設校による学校配置
- ② 津波災害に備えた学校施設の移転・改築

4 令和8年度以降のビジョン(①小中併設校による学校配置)

(1) 適正配置の基本方針に基づく検討

適正配置の基本方針	R2-R7	R8-13
複式学級の解消	◎	○
教育環境の充実、学習・特別活動等の選択の幅を広げるための学校再編成	◎	◎
地域事情や地理的条件に配慮した学校間連携	○	◎

【注力度合い：◎＞○】

適正配置基本方針から	教育環境の充実等を目的とした学校再編成・学校間連携
教育振興基本計画に掲げる施策	『 <u>小学校と中学校の円滑な接続を重視</u> 』

方向性：小中連携教育の充実を図る学校配置を展開

(2) 小中連携教育の充実を図る学校配置(形態)の検討

小中連携教育		小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育	
<div>(従来型)</div>	①小中併設校	小中一貫教育 9年間を通じた教育目標・教員課程を編成した系統的な教育	
	●組織上独立した小学校、中学校が連携した教育を行う。	②小中一貫型小学校・中学校	③義務教育学校
		●組織上独立した小学校、中学校が一貫した教育を行う。 (義務教育学校に準じた形)	●一つの学校
	修業年限：小学校 6 年、中学校 3 年 校長兼任可能	修業年限：小学校 6 年中学校 3 年 校長兼任可能	修業年限：9 年（前期 6 年／後期 3 年） 校長 1 人
	それぞれの教職員組織	それぞれの教職員組織	一つの教職員組織
	教員免除：それぞれ	教員免許：それぞれ	教員免許：両免（当分、担当する一方）
	現在、参考例として示されている一貫教育にふさわしい運営体制は整備可能（学校運営協議会合同設置など）	一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件 (例) 学校運営協議会合同設置	一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件 (例) 学校運営協議会合同設置
	—	㊦一貫教育に必要な独自教科の設定	㊦一貫教育に必要な独自教科の設定
	設置手続：不要	設置手続：市教委規則	設置手続：市条例
	㊦㊧以外、現在想定できる各取組は、小中併設校で実践可能！ ㊦一貫教育に必要な独自教科の設定 ㊧指導内容の入替・移行		

【選択する学校配置の形態（考察）】

- 教育環境・教育課程の変更は、児童生徒に大きな影響をもたらし、変更後は容易に戻すことはできません。
- ◎ 教職員にとっても、小中一貫教育への対応は大きな負担となりますので、まずは小中教職員間の共通理解の醸成を図り、着実に小中連携を進めることができる『**小中併設校**』の形が、現時点では最も適していると考えます。

（3）小中併設校による学校配置のイメージ

- 校舎や校地を共有し、
- 小・中学校間の教育的な連携や学校運営の効率化を目指す

○川井小学校・川井中学校における主な取り組み【モデルケースに採用】

◎学校教育目標や学校経営方針、目指す姿の一本化

小中共通のグランドデザイン・まなびフェストの策定 / 小中合同での職員会議、研究会・研修会を開催するほか、相互の授業参観などを通じた情報交流・共通理解の醸成 / 小中合同での運動会、しらかば祭（学習発表会＋文化祭）、入学式、卒業式、始業式・終業式・修了式の実施 / 校務分掌や学校運営協議会、PTA組織、川井地区学校保健委員会の小中組織の一体化 / 各部（教務・指導・事務）の共通目標・共通方針・共通課題の設定

◎新たに小中教職員の連携を図るための『総括教務』というポジションを設置

小中それぞれの文化や教職員の思いを大切にしながら、教育課程（教育計画）を再編成

◎中学校教員による専門性を生かした、小学校での「乗り入れ授業」を実施

令和7年度スタート：【教科】国語・書写、社会、音楽、体育

◎中学進学時の不安（いわゆる中1ギャップ）の軽減と小学校高学年のリーダー性の育成の両立

小中連携教育の質の向上を図りながらも、児童会と生徒会の分離、小中それぞれの入学式・卒業式の開催

5 令和8年度以降のビジョン(②津波災害に備えた学校施設の移転・改築)

津波で浸水する恐れのある学校施設の移転改築については、早期に行う必要があります。

「日本海溝・千島海溝沿いの最大クラスの断層モデルに加え、過去に県内で発生した最大クラスの津波も対象とした浸水想定」

小学校名	破堤あり	破堤なし
宮古小学校	2.4m	
山口小学校		
鍬ヶ崎小学校	5.9m	
磯鷄小学校		
千徳小学校		
花輪小学校		
津軽石小学校	7.9m	4.8m
重茂小学校		
崎山小学校		
田老第一小学校	12.0m	
新里小学校		
川井小学校		

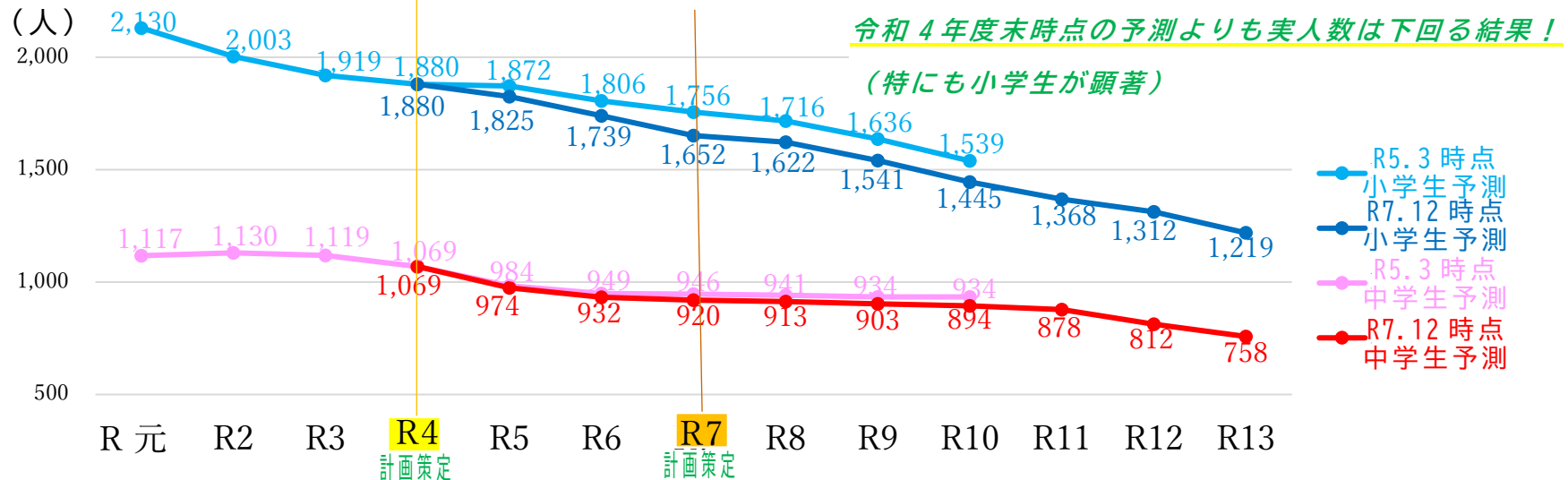
中学校名	破堤あり	破堤なし
第一中学校	2.8m	
第二中学校		
河南中学校		
宮古西中学校		
花輪中学校		
津軽石中学校	6.8m	4.6m
重茂中学校		
崎山中学校		
田老第一中学校	9.7m	0.2m
新里中学校		
川井中学校(併設)		

●破堤あり：岩手県 R4.3.29 公表によるデータ

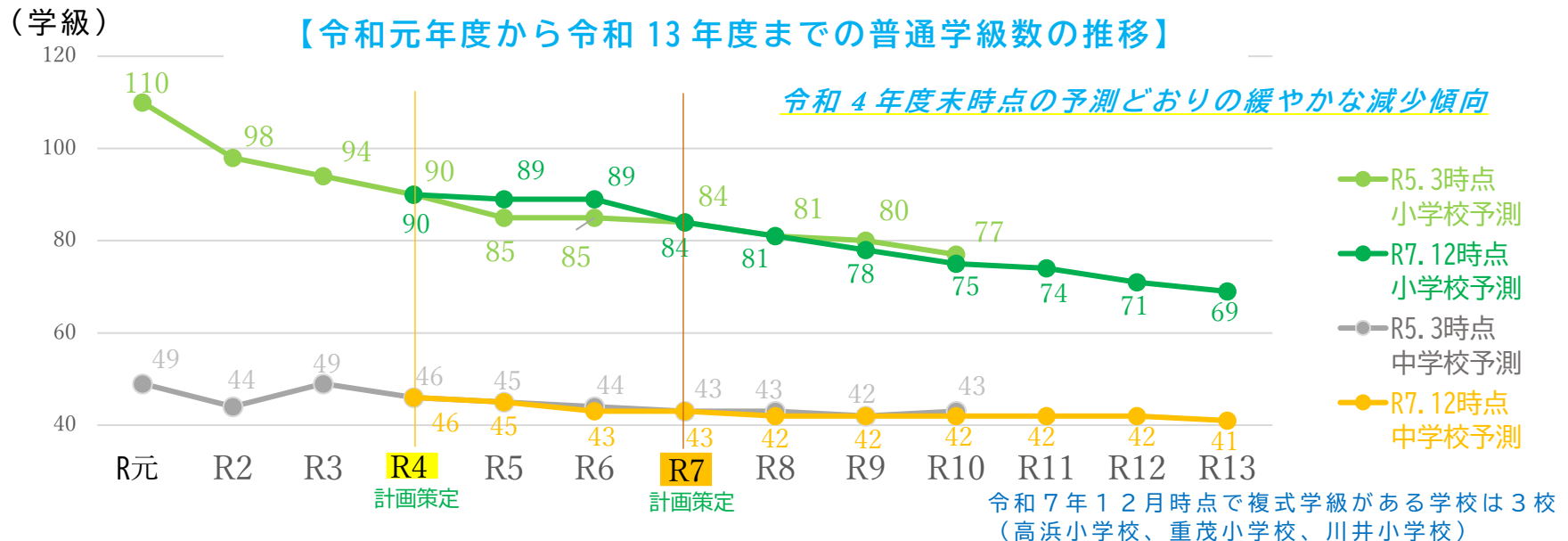
●破堤なし：宮古市危機管理監危機管理課調べによるデータ

6 市内小中学校児童生徒数及び普通学級数の推移と将来推計値一覧

【令和元年度から令和13年度までの児童生徒数の推移】



【令和元年度から令和13年度までの普通学級数の推移】



7 小中学校の児童生徒数・普通学級数の推移

〔小学校の児童数・普通学級数（35人学級）の予測〕

年度	R 7		R 8		R 9		R 10		R 11		R 12		R 13	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
宮古	175	7	167	7	164	7	150	6	140	6	136	6	129	6
鍬ヶ崎	94	6	86	6	78	6	65	6	61	6	56	5	54	5
磯鷄	228	11	254	12	243	11	222	10	213	9	201	8	180	7
山口	196	7	197	7	180	6	173	6	166	6	157	6	148	6
千徳	363	12	367	12	359	12	346	12	325	12	307	12	291	12
高浜	37	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
花輪	133	6	128	6	121	6	108	6	103	6	95	6	82	6
津軽石	109	6	107	6	104	6	95	6	92	6	85	6	82	6
重茂	47	4	48	5	47	4	43	4	42	4	39	4	40	4
崎山	130	6	137	6	125	6	127	6	122	6	132	6	117	6
田老第一	66	6	58	6	58	6	59	6	55	6	57	5	52	5
新里	48	6	52	5	43	5	41	4	31	4	32	4	29	3
川井	26	3	21	3	19	3	16	3	18	3	15	3	15	3
合計	1,652	84	1,622	81	1,541	78	1,445	75	1,368	74	1,312	71	1,219	69

〔中学校の児童数・普通学級数（35人学級）の予測〕

年度	R 7		R 8		R 9		R 10		R 11		R 12		R 13	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
第一	177	6	192	6	191	6	203	6	197	6	181	6	168	6
第二	57	3	57	3	59	3	55	3	53	3	45	3	39	3
河南	150	6	147	6	147	6	141	6	136	6	132	6	124	6
宮古西	217	7	190	6	187	6	185	6	187	6	186	6	178	6
花輪	55	3	64	3	63	3	73	3	72	3	72	3	60	3
津軽石	77	3	68	3	71	3	61	3	57	3	50	3	48	3
重茂	24	3	24	3	24	3	25	3	27	3	26	3	22	3
崎山	68	3	73	3	74	3	73	3	74	3	53	3	57	3
田老第一	44	3	49	3	41	3	38	3	31	3	26	3	28	3
新里	35	3	31	3	30	3	25	3	32	3	26	3	23	3
川井	16	3	18	3	16	3	15	3	12	3	15	3	11	2
合計	920	43	913	42	903	42	894	42	878	42	812	42	758	41

R7.5.1 現在の児童生徒数と就学前児童数に基づき算出した予測値。 学級数の朱書きは複式学級があることを意味しています。

8 適正配置対象校の選定

○学校施設整備指針 《ビジョン①、ビジョン②》

- ・小中併設校による学校配置
- ・津波災害に備えた学校施設の移転・改築

○実施計画（令和 8 年度～令和 10 年度）における『適正配置対象校』の選定

- 津軽石小学校・津軽石中学校
- 田老第一小学校・田老第一中学校
- 鍬ヶ崎小学校・第二中学校

9 津軽石小学校・津軽石中学校

〔令和7年度児童数・普通学級数〕（単位：人・学級）

区 分	普通学級の児童数							学級数
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	
津軽石小学校	18	16	14	20	23	18	109	6

〔今後の児童数・普通学級数の予測〕（単位：人・学級）

予測年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
区 分	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
津軽石小学校	107	6	104	6	95	6

学校施設の状況

区 分	完成年度	保有面積	構 造
校 舎	S49 (築 51)	1,004	鉄筋コンクリート造
	S50 (築 50)	1,766	鉄筋コンクリート造
	合 計	2,770	
屋内運動場	S51 (築 49)	630	鉄筋コンクリート造
プール	S52 (築 48)	400	スチール
校地面積	建物敷地	0	
	屋外運動場等	0	
	合 計	0	借用 10,545

津軽石小学校のデータ

破堤なし：最大浸水深 4.8m
破堤あり：最大浸水深 7.9m

津軽石小学校⇔津軽石中学校

徒歩：約 1.4 km（16分）

直線距離：約 1.0 km

津軽石中学校のデータ

破堤なし：最大浸水深 4.6m
破堤あり：最大浸水深 6.8m

〔令和7年度生徒数・普通学級数〕（単位：人・学級）

区 分	普通学級の生徒数				学級数
	1年生	2年生	3年生	合計	
津軽石中学校	30	20	27	77	3

〔今後の生徒数・普通学級数の予測〕（単位：人・学級）

予測年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
区 分	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
津軽石中学校	68	3	71	3	61	3

学校施設の状況

区 分	完成年度	保有面積	構 造
校 舎	S53 (築 47)	2,258	鉄筋コンクリート造
屋内運動場	S54 (築 46)	900	鉄筋コンクリート造
プール			
校地面積	建物敷地	6,716	
	屋外運動場等	12,364	
	合 計	19,080	市所有

10 田老第一小学校・田老第一中学校

〔令和7年度児童数・普通学級数〕（単位：人・学級）

区 分	普通学級の児童数							学級数
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	
田老第一小学校	10	8	10	8	13	17	66	6

〔今後の児童数・普通学級数の予測〕（単位：人・学級）

予測年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
区 分	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
田老第一小学校	58	6	58	6	59	6

学校施設の状況

区 分	完成年度	保有面積	構 造
校 舎	S57 (築43)	3,356	鉄筋コンクリート造
	S57 (築43)	16	木造
	S58 (築42)	3	木造
	合 計	3,375	
屋内運動場	S52 (築48)	766	鉄筋コンクリート造
プール	H2 (築35)	400	ステンレス
校地面積	建物敷地	4,035	
	屋外運動場等	9,834	
	合 計	13,869	市所有

田老第一小学校のデータ

破堤なし：—
破堤あり：最大浸水深 12.0m

田老第一小学校⇔田老第一中学校
徒歩：約 0.6 km（7分）
直線距離：約 0.4 km

田老第一中学校のデータ

破堤なし：最大浸水深 0.2m
破堤あり：最大浸水深 9.7m



〔令和7年度生徒数・普通学級数〕（単位：人・学級）

区 分	普通学級の生徒数				学級数
	1年生	2年生	3年生	合計	
田老第一中学校	11	21	12	44	3

〔今後の生徒数・普通学級数の予測〕（単位：人・学級）

予測年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
区 分	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
田老第一中学校	49	3	41	3	38	3

学校施設の状況

区 分	完成年度	保有面積	構 造
校 舎	S49 (築51)	3,466	鉄筋コンクリート造
	S49 (築51)	60	木造
	S57 (築43)	162	鉄筋コンクリート造
	S63 (築37)	65	鉄筋コンクリート造
	合 計	3,753	
屋内運動場	S62 (築38)	1,237	鉄筋コンクリート造
プール	S63 (築37)	400	ステンレス
校地面積	建物敷地	8,491	
	屋外運動場等	17,496	
	合 計	25,987	市所有

11 鉾ヶ崎小学校・第二中学校

〔令和7年度児童数・普通学級数〕（単位：人・学級）

区 分	普通学級の児童数							学級数
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	
鉾ヶ崎小学校	14	12	13	20	20	15	94	6

〔今後の児童数・普通学級数の予測〕（単位：人・学級）

予測年度	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度	
区 分	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
鉾ヶ崎小学校	86	6	78	6	65	6	61	6	56	5	54	5

学校施設の状況

区 分	完成年度	保有面積	構 造
校 舎	S47 (築 53)	1,450	鉄筋コンクリート造
	S48 (築 52)	1,771	鉄筋コンクリート造
	合 計	3,221	
屋内運動場	S48 (築 52)	820	鉄筋コンクリート造
プール	S49 (築 51)	400	鉄筋コンクリート
校地面積	建物敷地	3,611	
	屋外運動場等	8,757	
	合 計	12,368	市所有

鉾ヶ崎小学校のデータ

破堤なし： —
破堤あり：最大浸水深 5.9m

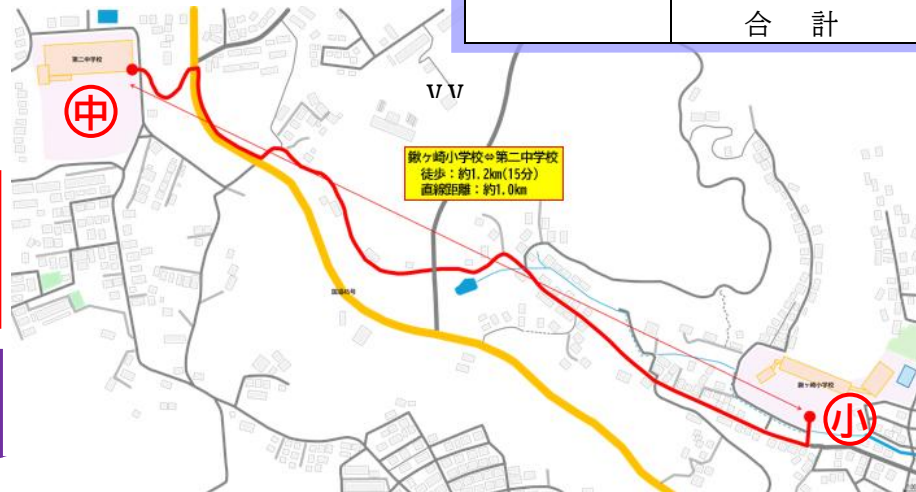
鉾ヶ崎小学校⇄第二中学校

徒歩：約 1.2 km (15分)

直線距離：約 1.0 km

第二中学校のデータ

浸水の恐れなし



〔令和7年度生徒数・普通学級数〕（単位：人・学級）

区 分	普通学級の生徒数				学級数
	1年生	2年生	3年生	合計	
第二中学校	24	18	15	57	3

〔今後の生徒数・普通学級数の予測〕（単位：人・学級）

予測年度	8 年度		9 年度		10 年度		11 年度		12 年度		13 年度	
区 分	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
第二中学校	57	3	59	3	55	3	53	3	45	3	39	3

学校施設の状況

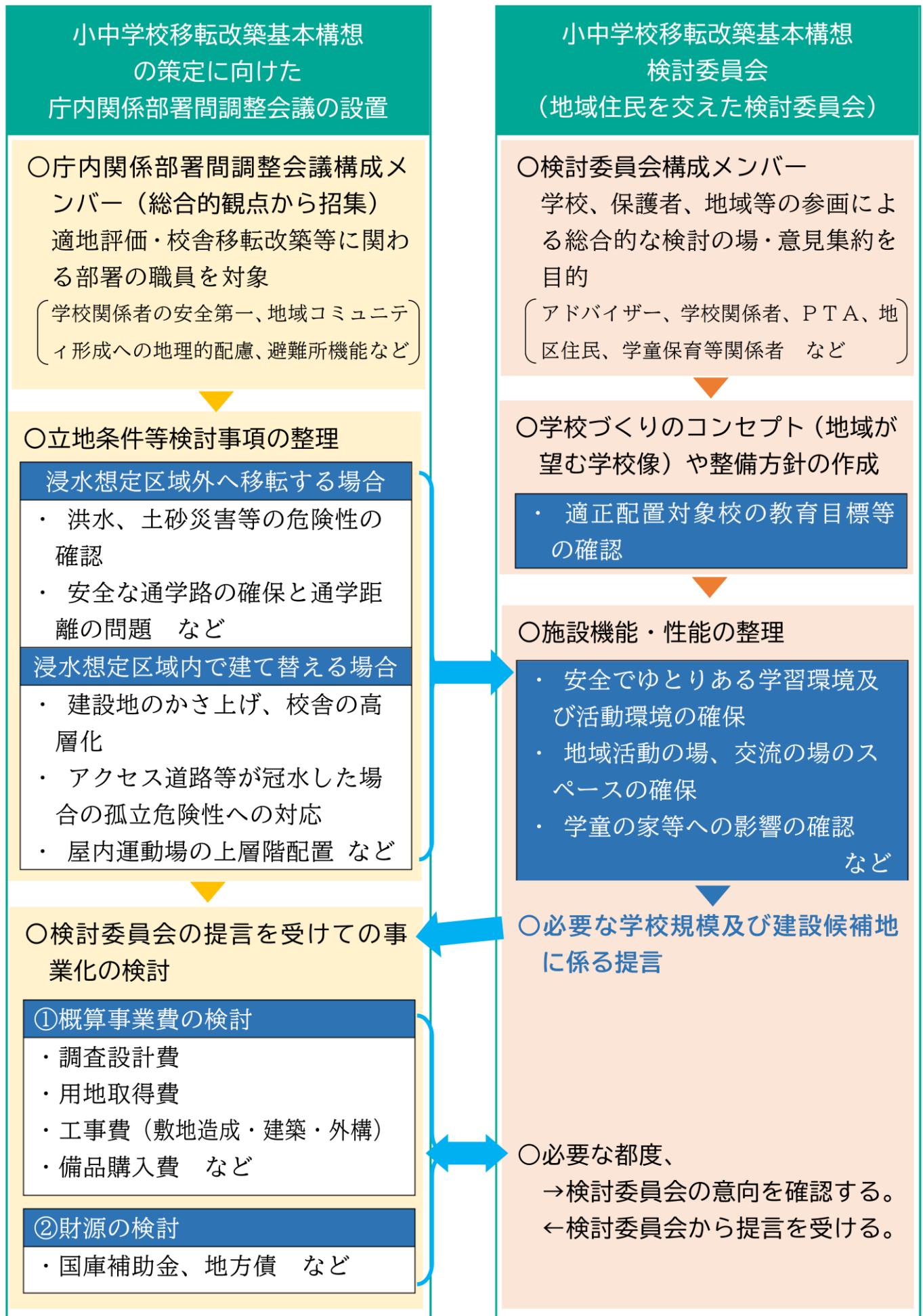
区 分	完成年度	保有面積	構 造
校 舎	S61 (築 39)	3,387	鉄筋コンクリート造
屋内運動場	S60 (築 40)	1,237	鉄筋コンクリート造
プール	S62 (築 38)	400	ステンレス
校地面積	建物敷地	7,996	
	屋外運動場等	14,580	
	合 計	22,576	市所有

12 適正配置の進め方

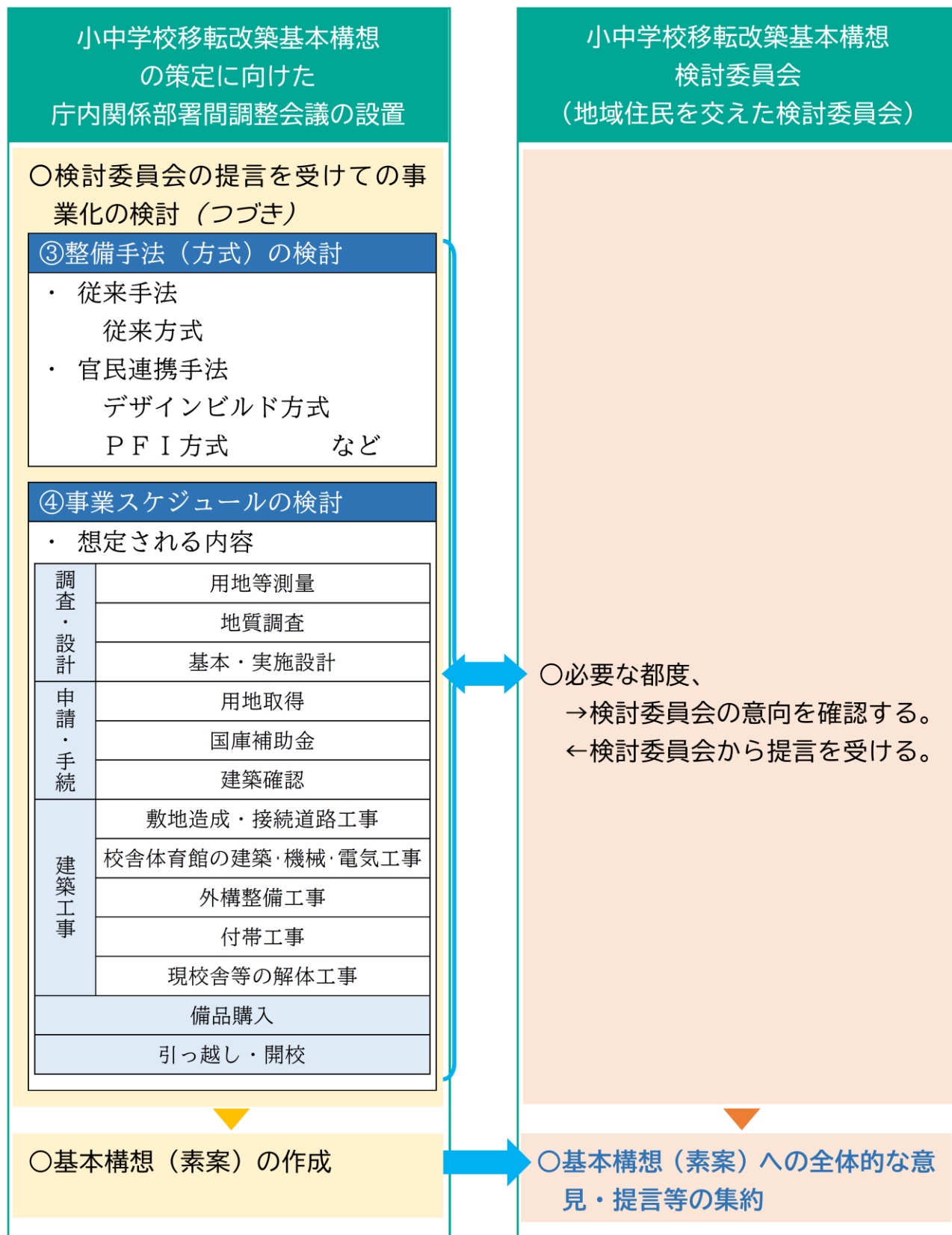
○小中学校移転改築基本構想

<p>検討組織 の設置</p>	<p>①小中学校移転改築基本構想の策定に向けた庁内関係部署間調整会議の設置</p> <p>学校移転改築には建築基準法や学校教育法、バリアフリー法などが適用され、立地には各種行政手続きの確認が必要</p> <p>②小中学校移転改築基本構想検討委員会の設置</p> <p>広く地域住民の意向を反映するため、アドバイザー・学校関係者・保護者・地域等の方々が参画する検討会議を設置</p>
<p>検討する 項目</p>	<p>①総合的な観点からの適地評価（立地条件・エリア選定の視点）</p> <p>自然災害等に対する児童生徒・教職員等の安全確保、地域コミュニティ形成への地理的な考慮、避難所機能など</p> <p>②地域住民の意見を踏まえた整備（建設）候補地の選定</p> <p>【浸水想定区域外】安全な通学路の確保と通学距離の問題、洪水・土砂災害の危険性の確認など</p> <p>【浸水想定区域内】建設地の嵩上げ、校舎の高層化、高台への二次避難経路、備蓄倉庫・屋内運動場の上層階配置など</p> <p>③学校づくりのコンセプトや整備方針の作成、必要な機能・性能等の整理</p> <p>適正配置対象校の教育目標の確認、安全でゆとりのある学習活動・地域交流のスペース確保、学童保育の確認など</p> <p>↳ これらを踏まえた学級数、学校規模等の設定など</p>
<p>事業化に 向けた 項目立て</p>	<p>①概算事業費の検討</p> <p>②財源の検討</p> <p>③整備手法（方式）の検討（従来手法・官民連携手法）</p> <p>④事業スケジュールの検討</p>
<p>基本構想 決定まで の手順</p>	<p>小中学校移転改築基本構想（原案）の公表</p> <p>↓</p> <p>市議会・地域住民への説明・意見集約</p> <p>↓</p> <p>パブリックコメントの実施</p> <p>↓</p> <p>小中学校移転改築基本構想の決定</p>

13 小中学校移転改築基本構想の策定フロー図



13 小中学校移転改築基本構想の策定フロー図 つづき



「素案」と「全体的な意見・提言等の集約」
を合本化し、基本構想（原案）の策定

【基本構想の策定（決定）のプロセス】

